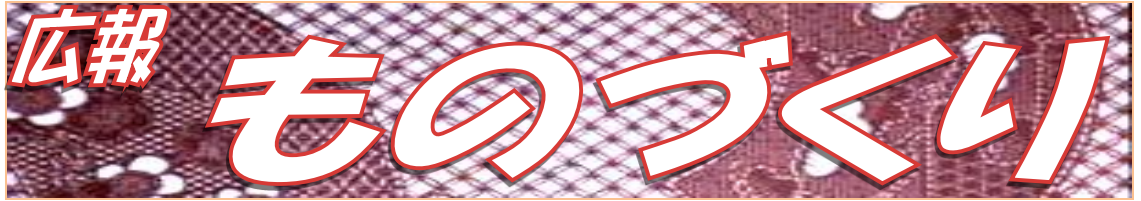




鈴鹿ものづくり元気の発信源

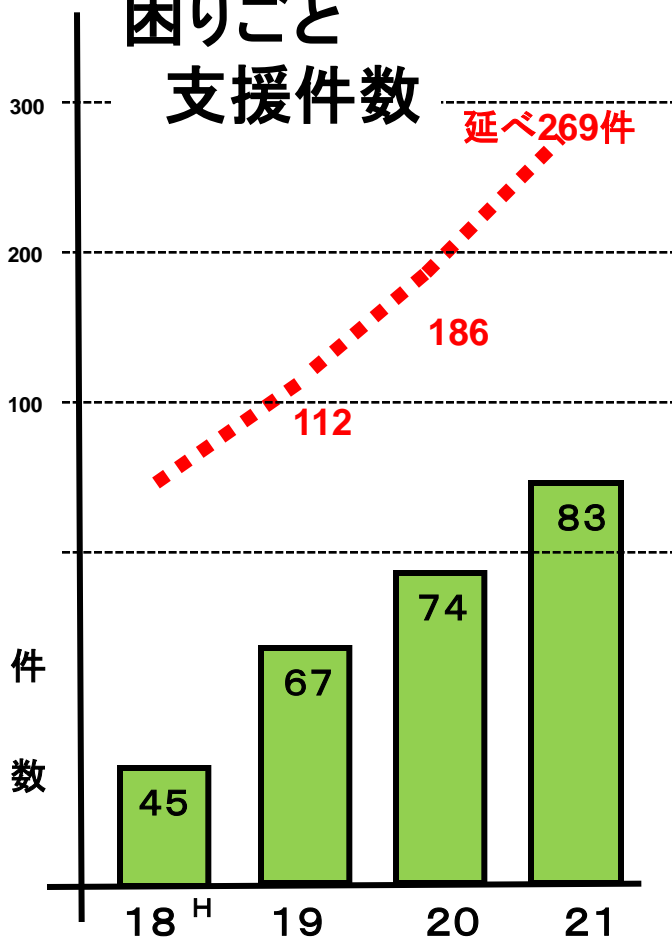


全力でがんばる中小企業に 企業OBがヒントの手を

一昨年のリーマンショック以降の景気低迷も、ようやく回復の兆しが見えてまいりました。現在では、自社の目標をしっかりと持ち、安定した経営を展開している中小企業も少なくありません。

今後は、今まで築いてきた「自社のコア技術」を活用した事業の展開。また、ものづくり企業の基本となる「技術力の向上」や「経営戦略の策定」など、さらに前向きな取り組みを検討しては如何ですか？

困りごと 支援件数



ものづくり動く支援室では、今まで4年間の活動を通して延べ269件のさまざまなテーマの支援実績があり、100社余りのリピーター企業に利用いただいています。

50名の企業OBアドバイザーが、^{※1}無料で貴社の現場の困りごとや経営についての応援をさせていただきます。

どんなことでも遠慮なくご相談ください。

(※1 無料にて年間12回まで支援いたします)

◇ 活動事例紹介

テーマ：海外進出計画の策定

背景：自社の技術で新ビジネスの開拓を図りたい

目標：
・1st:2011年5月 商品発売
・2st:2013年末 現地生産開始

内容：海外事業計画に必要な管理項目を知り、裏付けデータの反映と検証。

- ・自社の技術将来戦略、経営資源、バックグラウンドを画く
- ・戦略取組み、中長期計画の立案
- ・実施管理項目の洗い出し
- ・為替リスクの調査
- ・海外進出、法規制、風土、文化、歴史、国民性などの調査

活動：自社の強み、弱みを棚卸し、現地化に向け、
ポイント 製造、販売拠点戦略のイメージ化と可能性についてアドバイス。

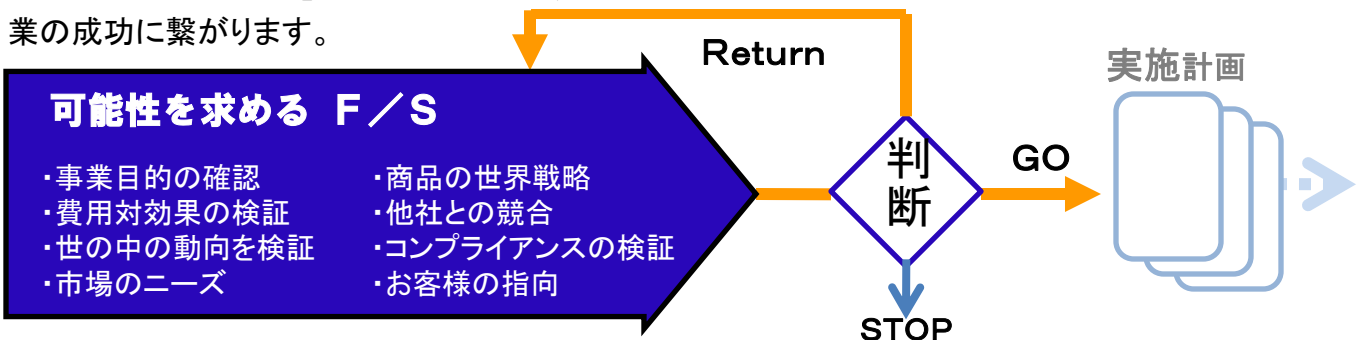
社長：海外進出に当たり具体的推進、フィージビリティスタディーのノウハウなどアドバイスを得た。漠然とした夢を現実的な事業計画にまで推進できたことに感謝します。



◇ 用語解説 フィージビリティ スタディー 【feasibility study】

なにか新しいことを計画しようとするときは、「あれは大丈夫かな?」「資金はどのくらい必要か」などを必ず考えると思います。可能性や費用対効果などあらゆる角度からの検討をすることで、計画の可能性を検証することをフィージビリティ スタディーといいます。

「しっかりとした調査」をし、当初の事業展開が可能かどうかをシュミレーションを行なうことが、事業の成功に繋がります。



◇ おしらせ ものづくりの研究開発補助！

◆内容

産学官の連携による研究開発の強化と市内の製造業の活性化を図るため、新商品や新技術の研究開発に要する経費の一部を補助します。

◆対象

市内に本社または主たる事業所がある事業者の新商品や新技術の研究開発で、大学や高専などの高等教育機関と共同で行う事業やその指導を受けて行う事業。

◆補助額

補助対象経費の2分の1以内(50万円以上250万円以内)

◆申込期日／申請プレゼンフォローなど

5月6日(木)～6月18日(金)までにものづくり動く支援室へ

【発行】 鈴鹿市 産業振興部

産業政策課 ものづくり動く支援室

〒513-8701

鈴鹿市神戸一丁目18番18号(別館第三)

TEL 059-382-7011 FAX 059-384-0868

E-mail: sangyoseisaku@city.suzuka.lg.jp